

洗足池散策ガイド



洗足池とは

武蔵野台地の湧水をせき止めた池で、かつては「千束郷の大池」と呼ばれ、灌漑用水としても利用されていました。「洗足池」と呼ばれるようになったのは、日蓮聖人が病氣療養のため身延から常陸に向かう途中に立ち寄った際に、池で足を洗ったことが由来です。池の広さは約4万㎡と都内屈指で、四季折々の豊かな自然や、史跡、神社など見どころいっぱい。ボートを楽しむこともできます。大田区の水と緑のオアシスを散策しませんか。

洗足池DATA

洗足池公園の面積：約77,000㎡
池の面積：約41,000㎡
池の一周：約1.2km(徒歩約20分)

アクセス

東急池上線「洗足池」駅下車すぐ
(JR・東急「蒲田」駅から13分／JR・東急「五反田」駅から9分)

洗足池 貸しボート

ボートに乗れば、池から四季折々の自然や水鳥を観察できます。ボートは3種類(サイクルボート、スワンボート、ローボート)があります。

種類	定員	料金(30分)	料金(60分)
スワンボート	大人3人または2人+幼児2人	800円	1300円
サイクルボート	大人2人+幼児1人	600円	1000円
ローボート	大人3人	400円	600円

◆ボート券発売時間 9:30～16:30
◆年中無休(12/29～1/3除く)



洗足池 イベントカレンダー

桜祭

3月末～4月上旬

場所：洗足池畔一帯



池周辺には約220本の桜が植えられています。毎年3月下旬から屋台が出て、桜を愛でる花見客たちでにぎわいます。

灯籠流し

7月16日

場所：御松庵妙福寺 5



大田区広聴広報課提供

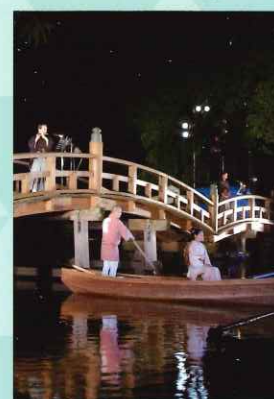
お盆の先祖供養のために行われる御松庵妙福寺の仏事。水面を照らす約600個の灯籠が幻想的です。



洗足池 春宵の響

5月

場所：池月橋 3



5月の満月に近い夜、池月橋の上で行われる横笛演奏会。人間国宝・賽山左衛門一門が奏でます。

洗足池 ほたるのゆうべ

7月下旬

場所：水生植物園八つ橋

約3000匹のホタルが放たれる鑑賞会。ヘイケボタルの幼虫の育成・放流を行い、ホタルの自生化にも取り組んでいます。

詳しくはこちらへお問い合わせください。

公益社団法人 洗足風致協会

大田区南千束2-1-6

TEL:03-3720-4441 FAX:03-3720-4470

令和2年8月発行

【発行】

公益社団法人 洗足風致協会

大田区南千束2-1-6

TEL:03-3720-4441 FAX:03-3720-4470

一般社団法人 大田観光協会

大田区南蒲田1-20-20大田区産業プラザ2F

TEL:03-3734-0202 FAX:03-3734-0203

http://www.o-2.jp

※このマップに掲載のイラスト・写真・文章の無断転載を禁じます。

洗足流れ

東急池上線洗足池駅から南東に約1.4km続くせせらぎ沿いの散策路



地図の見方

— モデルコース(約1.4km)
— 花観覧スポット

このあたりから南は鯉が泳いでいます

このあたりから暗渠です



桜のプロムナード

小池公園

洗足池の大池に対して、小池と呼ばれていた溜池の雰囲気をも復元した公園。水辺環境を活かしており、野鳥や四季の野草などを見ることができます。



大田区広聴広報課提供



1 千束八幡神社

貞観2(860)年に豊前(現在の大分県)の宇佐八幡から分霊した神社。鎌倉初代将軍源頼朝の旗揚げに関係があり「旗揚げ八幡」とも呼ばれています。9月第1土・日には祭礼が行われます。



2 池月像

源頼朝の愛馬であり、寿永3(1184)年の宇治川の先陣争いで一番乗りを果たし、名を馳せた名馬「池月」の銅像です。



3 池月橋

池の景観を風情豊かにする木製の三連太鼓橋。5月には「春宵の響」が行われます。



洗足池全景

開

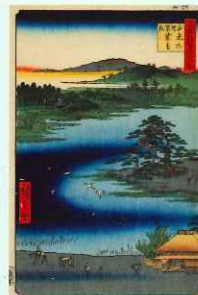


イラスト:白鳥みちこ

洗足池MAP

洗足池は、江戸時代から景勝地として有名で、初代歌川広重の浮世絵「名所江戸百景」にも描かれたほど。

「名所江戸百景
千束の池袈裟懸松」
歌川広重(安政3年)
大田区郷土博物館提供



4 勝海舟夫妻墓所

勝海舟夫妻のお墓。海舟は生前より、墓は洗足池の畔にと決めており、「富士を見ながら土に入りたい」という遺言を残していました。今でも千束八幡神社の方角に富士山が見えます。



5 御松庵妙福寺

御松庵は、日蓮聖人の道中を守った七面天女を安置し、袈裟懸松を護るお堂がはじまりと伝えられており、境内には初代の松の切り株が保存されています。昭和2(1927)年に妙福寺と合併。10月17日にはお会式が行われます。



6 袈裟懸松

日蓮聖人が身延山から常陸国(現在の茨城県)へ向かう途中、休憩のため池に立ち寄った際、手足を洗う時に袈裟を懸けたことから、袈裟懸松と呼ばれています。

